

IV-10

秋田市における交通バリアフリー点検について

秋田大学 学生員○酒井 瑛一

秋田大学 正会員 木村 一裕

秋 田 市 川村 亨

秋 田 市 佐藤 素央

1. はじめに

交通バリアフリー法に基づく基本構想策定においては、重点整備地区のバリアフリー点検が行われる。この点検作業は地区のバリアの状況を把握するだけでなく、点検参加者が地区に存在するさまざまなバリアに気づくことによって、自発的に障がい者の介助を行ったり、放置自転車による新たなバリアの発生を防ぐという、いわゆる「心のバリアフリー」の進展に貢献するものであると考える。

本研究では、交通バリアフリー点検を通じて、秋田市におけるバリアフリーの現状を把握するとともに、点検を通じたバリアの気づきの効果について考察することを目的としている。

2. 秋田市重点整備地区のバリアの状況

(1) バリアフリー点検の方法

バリアフリー点検の方法は、参加者による徒歩及び車椅子での移動の中で、被験者がルート上で気になった場所やものについて点検マップに箇所を書き入れ、点検シートに記入する方法にした。また、特に必要なものは写真に撮るようにした。

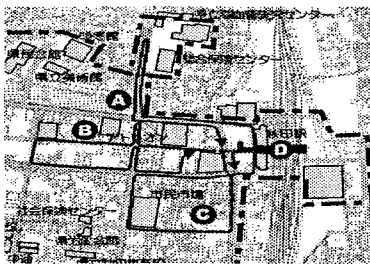


図-1 秋田駅周辺のルートの例

(2) バリアフリー重点整備地区の現状の評価

障がい者別に指摘の割合を見てみると、視覚障がい者は移動手段に欠かす事のできない点字ブロックに関するものが多くっており、中でも点字ブロックの難解さ・不足、点字ブロック付近の支障物が多

くなっている。聴覚障がい者は、耳が聞こえない分、多くの情報を視覚で得るために、情報伝達に関する指摘の割合が高くなっている。車いす使用者は段差、勾配、溝のような歩道・路面に関する指摘の割合が高くなっている。

重点整備地区ごとにみると、秋田駅周辺では点字ブロックの設置等の整備が行われてはいるものの、段差、破損、支障物等のバリアにより、歩行や通行の連続性に支障を来している状況がうかがえる。土崎駅周辺では、秋田駅周辺に比べバリアフリー化が遅れている状況にあり、駅構内を含め障がい者がゆとりをもって外出する環境になっていないことがうかがえる。

表-1 障がい者別の具体的指摘項目

	具体的指摘項目	指摘件数
視覚障がい者	点字ブロックの途切れ	36
	点字ブロックの色が分かりにくい	18
	点字が逆に設置されている	4
	階段の段鼻の色が分かりにくい	2
聴覚障がい者	歩道上に支障物がある	27
	人通りの多い交差点では後ろから来る車が分からない	2
	耳が聞こえないため交差点付近での緊急車両の接近がわかり	2
	段差大	111
車いす使用者	勾配大	60
	グレーチングの網目が大きい	22
	券売機の足元が壁である	1

3. バリアの気づきに関する考察

(1) アンケート調査の概要

バリアの気づきに関するアンケート調査の概要を表-2 に示している。調査対象者を秋田大学土木環境工学科2年生、3年生、4年生とし、実際に日常生活の中でバリアに気づいているのか調査した。

表-2 調査概要

調査対象	秋田大学土木環境工学科2年生、3年生、4年生
調査項目	バリアの気づきに関する質問、バリアフリー点検の有無、障がい者に対する介助の有無など
有効回収数	98票(バリアフリー点検経験者41票、非経験者57票)

秋田大学土木環境工学科では、「福祉のまちづくり」、「高齢者・障害者の交通計画」など、福祉のまちづくりに関連した授業が行われている。また一部の学生は、授業等でバリアフリー点検を経験している。

（２）気づきのレベルの評価

バリアの気づきについては、バリアフリー点検の指摘事項を含めて、表-3 に示すような項目を設定した。これらの項目について、バリアの気づきに対する回答を数値化して、バリアフリー点検経験者と非経験者の結果を示したものが、図-2 である。

表-3 質問項目の説明

番号	質問項目の説明
1	歩道上に自転車駐輪されている箇所を見ると、歩道の幅員が狭くなり歩行の妨げになると思う。
2	斜面が続く歩道を見ると、車輪子の移動が困難であると思う。
3	まちの中で障害者が利用できるトイレの数が少ないと、障害者はとても困ると思う。
4	歩行者用信号機の青の時間が短い交差点では、視覚障害者は、最後まで渡りきるまで大変だと思う。
5	歩道上に路上駐車している車両を見ると、視覚障害者は通行するのが困難になると思う。
6	寒い日に車椅子で屋外にいることは、自分が感じているよりかはるかに大変なことだと思う。
7	目のあらいグレーチングを見ると、車椅子の前輪がはまったり、視覚障害者の白杖が挟まったりして危険だと思う。
8	店の看板が歩道に出ているのを見ると、歩道の幅員が狭くなり、身体障害者の歩行の妨げになると思う。
9	人通りの多い歩道では、聴覚障害者は耳が聞こえないため後ろから来る自転車とぶつかる危険性があると思う。
10	歩道のブロックが1ヶ所ない部分を見ると、車椅子の前輪がはまったり、視覚障害者が転倒する危険性があると思う。
11	車道側へ傾いている歩道を見ると、車椅子が車道に流れていってしまうため危険だと思う。
12	インターロッキングブロックを見ると、継ぎ目が多く、また壊れやすいので車椅子での移動が困難であると思う。
13	車椅子の人が道路を横断するときには、左折の車などに自分が見えているのか、とても不安になっていると思う。
14	まちの中を見ると、体の弱い人が休むためのベンチ等がないので、100mに1カ所くらい休憩する箇所があれば良いと思う。
15	階段の角（段鼻）が目立たない階段を見ると、昇り降りがわかりにくいため、視覚障害者が転倒してしまう可能性があると思う。
16	自動販売機の足元が壁になっているのを見ると、車椅子利用者は切符を買うことができないと思う。
17	電柱が点字ブロックに近すぎる箇所を見ると、視覚障害者が電柱にぶつかる危険性があると思う。
18	人通りの多い交差点で緊急車両が通過したのを見ると、聴覚障害者は音を聞き取ることができないので危険であると思う。
19	ショッピングモールのような歩行空間に樹木がある場合、周りに柵をつけないと視覚障害者がぶつかってしまうと思う。

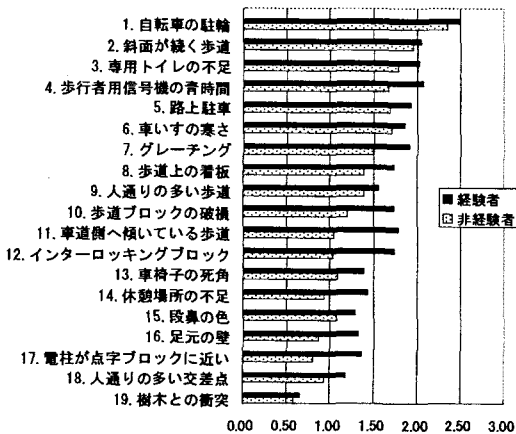


図-2 気づきのレベル

経験者、非経験者ともに気づく割合が高くなっていくのは「1.自転車の駐輪」や「2.斜面が続く歩道」である。経験者、非経験者ともに気づきの割合が低いものは、「19. 樹木との衝突」であった。

経験の有無による違いの差が大きく出た項目は、車椅子利用者に関するバリアで「10.歩道ブロックの破損」、「11.車道側へ傾いている歩道」、「12.インターロッキングブロックの振動」、「14.休憩場所の不足」等であった。

このほか 1～19 の項目以外に、気になる状況について尋ねたところ、経験者では 61%、非経験者は 56%の指摘があった。

（３）点検の有無と介助の関係

点検経験の有無と介助経験の関係を図-3 に示している。この図から、点検の有無により介助の経験の差も大きくなることがわかる。とくに点検非経験者の割合を見ると、「介助をする機会がない」という回答が経験者よりも大幅に多い。これには、介助をする機会がないだけでなく、介助すべき状況に気づいていない場合も含まれていると考えられる。

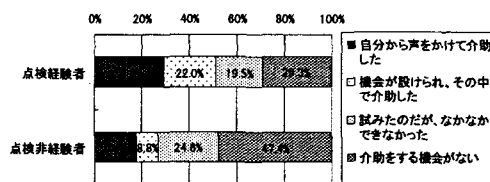


図-3 介助の有無について

4. まとめ

今回のバリアフリー点検の結果、現在の秋田市では駅構内を含め障がい者がゆとりをもって外出する環境になっていないことがうかがえた。

バリアの気づきに関するアンケートでは、点検の有無による違いの差が出た項目が多いことから、点検を通してバリアを学習したことを結びつける結果が得られた。また点検経験の有無により、介助の経験の差も大きくなることがわかったため、バリアフリー点検はハード面のバリアの問題解決だけでなく、ハートの面の解決にも結びついていることが理解できた。